

第三者評価結果シート（児童養護施設）

種別	児童養護施設
----	--------

①第三者評価機関名

公益社団法人神奈川県介護福祉士会

②評価調査者研修修了番号

sk15075
sk15076
s24419
神機構-456

③施設名等

名称：	ポート金が谷
施設長氏名：	星 頼子
定員：	30名
所在地（都道府県）：	神奈川県
所在地（市町村以下）：	
T E L：	
U R L：	
【施設の概要】	
開設年月日	2009/8/1
経営法人・設置主体（法人名等）：	社会福祉法人くるみ会
職員数 常勤職員：	20名
職員数 非常勤職員：	8名（アルバイト）
専門職員の名称（ア）	保育士、幼稚園教諭
上記専門職員の人数：	20名
専門職員の名称（イ）	社会福祉主事
上記専門職員の人数：	7名
専門職員の名称（ウ）	栄養士
上記専門職員の人数：	1名
専門職員の名称（エ）	看護師
上記専門職員の人数：	1名
専門職員の名称（オ）	心理士
上記専門職員の人数：	1名
専門職員の名称（カ）	
上記専門職員の人数：	
施設設備の概要（ア）居室数：	5ユニット（玄関、リビング、テーブル、テレビ、個室6部屋）
施設設備の概要（イ）設備等：	1ユニット6部屋（ベッド、備え付けタンス、机・いす）
施設設備の概要（ウ）：	親子訓練室（畳部屋、キッチン、浴室、脱衣室）
施設設備の概要（エ）：	ショートスタイルーム

④理念・基本方針

<p>くるみ会支援基本理念</p> <p>私たちくるみ会は、障害のある利用者や子どもたちとともに、一人ひとりの成長、一人ひとりの豊かな生活の実現を目指す。また、障害のある人、支援の必要な人の新たなライフスタイルを探り、できる限りそれを支え、ともに歩んでいく。その実現のために、職員は障害のある利用者と共に、安心、安全を感じられる環境を整え、活動する。さらに、ゆったりとした支援と暖かいまなざしを基本に、お互いに相手を思いやる関係づくりを目指す。</p> <p>ポート金が谷運営方針</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 多角的な視点（心理学、医学、教育学、社会学、障害学、福祉制度論、家族論等）に基づくアセスメントを通じて、個々の子ども達の発達に合わせた日課を作り、子ども達を養育していきます。 2. 子ども達の成長に合わせた学習を支援し、適切な学習プログラムを立て実行します。 3. 家族との関係調整について、子ども達の意向を踏まえながら適切にアプローチを行います。
--

⑤施設の特徴的な取組

<p>○地域とのつながりが強く、子どもたちや職員が自治会行事や子ども会の活動に多く参加している。地域の行事には、施設が保有する机や椅子、車なども提供し、協力している。</p> <p>○毎日の食事を子どもたちの育ちを支える柱のひとつとして捉え、厨房で一括調理をするのではなく、週4回は各ホームのキッチンで職員が夕食を作っている。子どもたちは、職員と一緒に、各ホームのリビングのテーブルを囲んで、食事を摂っている。</p> <p>○研修委員を5名置き、内部研修を定期的に開催する他、外部研修にも積極的に参加している。どの職員も年1回は外部研修に参加できるようにしている。また、小規模児童養護施設の設置を視野に入れ、施設見学に出向いている。</p>

⑥第三者評価の受審状況

評価実施期間（ア）契約日（開始日）	2016/5/16
評価実施期間（イ）評価結果確定日	2017/2/10
受審回数	1回
前回の受審時期	平成25年度

⑦総評

定員30名の小舎制の児童養護施設で、施設内に6人定員の「ホーム」が5つある。各ホームとも、家庭的な雰囲気を大切に、男女一緒、年齢も様々な子どもたちが生活を送っている。各ホームに3名の担当職員を置き、子どもたちが安心して生活できることを最善の利益として捉え、ホームは子どもたちにとって家であるため、「家だったらどうなのか」ということを第一にして、日々の養育・支援にあたっている。各ホーム、子どもたちの年齢が様々であるため、1日1回は一人ひとりに向き合う時間を作り、個別の援助ができるよう努めている。

⑧第三者評価結果に対する施設のコメント

今回、2回目の第三者評価となりました。聞き取り調査では、職員の気持ちや課題を客観的に見ていただけたこと、また私たちの支援及び養育の方向性を私たち自身が再確認できたことは、非常に価値が高いことであると感じました。さらに、子ども達からの聞き取りでは、子ども達が話しやすいような雰囲気づくりをしていただいた上で、丁寧に聞き取りをしていただき、子どもの素直な気持ちを引き出していただきました。
 今回の受審でアドバイスを頂いた内容を踏まえ、子ども達の生活がより豊かになり、希望を持ったものになるよう、改めて考えていければと思います。また、ご指摘いただいた部分については、真摯に受け止め、次年度の自己評価に生かしていくとともに、私たちの仕事の向き合い方についても問いかけていきたいと思っています。

⑥第三者評価結果（別紙）

（別紙）

第三者評価結果（児童養護施設）

共通評価基準（45項目）Ⅰ 養育・支援の基本方針と組織

1 理念・基本方針

(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。		第三者 評価結果
①	1 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	a
	<input type="checkbox"/> 理念、基本方針が文書（事業計画等の法人・施設内の文書や広報誌、パンフレット、ホームページ等）に記載されている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念は、法人・施設が実施する養育・支援の内容や特性を踏まえた法人・施設の使命や目指す方向、考え方を読み取ることができる。	○
	<input type="checkbox"/> 基本方針は、法人の理念との整合性が確保されているとともに、職員の行動規範となるよう具体的な内容となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、会議や研修会での説明、会議での協議等をもって、職員への周知が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、わかりやすく説明した資料を作成するなどの工夫がなされ、子どもや保護者等への周知が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針の周知状況を確認し、継続的な取組を行っている。	○
【コメント】		
法人の理念や園の運営方針は、ホームページや広報誌などで周知を図っている。園の運営方針は、運営指針に基づき、職員会議で職員の意見を集約し、毎年度見直しを行い、3月の理事会に提出している。事業方針などは法人全体で冊子にまとめ、職員に配布して、周知を図っている。法人全体の広報誌を年1～2回作成し、関係機関や送付が可能な家族、職員に配布している。広報誌に子どもたちの写真を掲載する場合は、プライバシーに配慮して、後ろ姿で載せるようにしている。		

1

2 経営状況の把握

(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。		第三者 評価結果
①	2 施設経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	b
	<input type="checkbox"/> 社会福祉事業全体の動向について、具体的に把握し分析している。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の各種福祉計画の策定動向と内容を把握し分析している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの数・子ども像等、養育・支援のニーズ、潜在的に支援を必要とする子どもに関するデータを収集するなど、法人・施設が位置する地域での特徴・変化等の経営環境や課題を把握し分析している。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に養育・支援のコスト分析や施設入所を必要とする子どもの推移、利用率等の分析を行っている。	○
【コメント】		
社会福祉事業全体の動向については、今年度、児童福祉法の改正もあったことから、法人全体で国の動向を把握し、職員に伝えている。職員に対しては、職員会議の場などで、法人が次にどのような事業を展開しようとしているか、予算面も含め、内容を伝えている。5月の決算理事会の内容も職員会議で話している。		

2

②	3 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。	b	3
	<input type="checkbox"/> 経営環境や養育・支援の内容、組織体制や設備の整備、職員体制、人材育成、財務状況等の現状分析にもとづき、具体的な課題や問題点を明らかにしている。		
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、役員(理事・監事等)間での共有がなされている。	○	
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、職員に周知している。		
	<input type="checkbox"/> 経営課題の解決・改善に向けて具体的な取組が進められている。	○	
【コメント】			
法人全体及び園の経営状況については、職員会議の場で、法人の総務から報告を行っている。今後の課題としては、子どもたちの遊び場作りをすすめること、現在は模索中だが地域小規模児童養護施設の設置をすすめることなどがあがっている。			

3 事業計画の策定

(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	第三者 評価結果		
①	4 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	b	4
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画において、理念や基本方針の実現に向けた目標(ビジョン)を明確にしている。		
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、経営課題や問題点の解決・改善に向けた具体的な内容になっている。		
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。		
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は必要に応じて見直しを行っている。	○	
【コメント】			
中・長期的な計画は、現時点では文書としては定めていない。単年度の計画については、運営方針などで明示しているが、中・長期的なビジョンは、職員会議などで口頭で伝えることが多い。将来を見据え、小規模児童養護施設の見学を行ったり、子どもたちの5年先の生活を考え、自立支援コーディネーターを設置したりしている。子どもたちが、高校を卒業した後、一人で生活する力をつけられるよう支援している。			

②	5 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	b	5
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画には、中・長期計画の内容を反映した単年度における事業内容が具体的に示されている。		
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、実行可能な具体的な内容となっている。	○	
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、単なる「行事計画」になっていない。	○	
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。		
【コメント】			
単年度の事業計画は、施設長が素案を作成し、職員会議の場で内容を検討している。事業計画は、4月の職員会議で内容を説明している。今年度の事業計画には、新しい学習環境への配慮、支援プログラムの構築、ショートステイ・トワイライトステイ事業の運営の継続、地域小規模児童養護施設の設置の検討、食育に向けた検討の継続、職員研修計画の策定、地域や学校との関係づくり、自己評価の実施など、中・長期的な計画も視野に入れた内容となっている。			

(2) 事業計画が適切に策定されている。			
①	6 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	a	6
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員等の参画や意見の集約・反映のもとで策定されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 計画期間中において、事業計画の実施状況が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて把握されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて評価されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 評価の結果にもとづいて事業計画の見直しを行っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員に周知(会議や研修会における説明等)がされており、理解を促すための取組を行っている。	○	
【コメント】			

事業計画は、前年度の状況を把握し、また職員の意見を入れながら、施設長がまとめている。理事会や月1回開催する法人全体の主任会議などで、評価、見直しを行っている。また、各事業所の会議の場で、その都度、職員の意見を聴取している。

②	7 事業計画は、子どもや保護者等に周知され、理解を促している。	c
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容が、子どもや保護者等に周知(配布、掲示、説明等)されている。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を子ども会や保護者会等で説明している。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を分かりやすく説明した資料を作成するなどの方法によって、子どもや保護者等がより理解しやすい工夫を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画については、子どもや保護者等の参加を促す観点から周知、説明の工夫を行っている。	

7

【コメント】

子どもたちや保護者に対して、事業計画の周知は行っていない。保護者の半数は、連絡が取れなかったり、また渡しにくい複雑な背景を抱えている。子どもたちには、各ホームや年齢別に開催する子ども会議の場で、行事の内容を伝えたり、旅行先の検討などを行っている。

4 養育・支援の質の向上への組織的・計画的な取組

(1)	質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。	第三者 評価結果
①	8 養育・支援の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	b
	<input type="checkbox"/> 組織的にPDCAサイクルにもとづく養育・支援の質の向上に関する取組を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容について組織的に評価(C:Check)を行う体制が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 定められた評価基準にもとづいて、年に1回以上自己評価を行うとともに、第三者評価等を定期的を受審している。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析・検討する場が、施設として位置づけられ実行されている。	

8

【コメント】

評価結果を分析、検討する場は、特に設けていないが、毎日、施設全体で行う打ち合わせの場などで、意見交換し、常に養育・支援の質の向上に向けた取り組みを組織的にしている。毎月定期的に、全体会議や調整会議、職員会議、ケース会議、ホーム会議を開催し、職員間の意識を統一し、質の向上に向けた取り組みを行っている。

②	9 評価結果にもとづき施設として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	b
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析した結果やそれにもとづく課題が文書化されている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員間で課題の共有化が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果から明確になった課題について、職員の参画のもとで改善策や改善計画を策定する仕組みがある。	
	<input type="checkbox"/> 評価結果にもとづく改善の取組を計画的に行っている。	
	<input type="checkbox"/> 改善策や改善の実施状況の評価を実施するとともに、必要に応じて改善計画の見直しを行っている。	

9

【コメント】

評価結果は職員に開示して、情報の共有化を行っている。施設整備や修繕については、年度初めに各ホームから改善点を出してもらい、改善につなげている。現在、ホームには二人部屋が2つ、三人部屋が1つあり、子どもたちが大きくなった時の対応も検討している。子どもたちにどんな支援を提供できるか、年度初めに自立支援プログラムを策定している。

II 施設の運営管理

1 施設長の責任とリーダーシップ

(1)	施設長の責任が明確にされている。	第三者 評価結果
①	10 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの施設の経営・管理に関する方針と取組を明確にしている。	○

10

<input type="checkbox"/>	施設長は、自らの役割と責任について、施設内の広報誌等に掲載し表明している。	○
<input type="checkbox"/>	施設長は、自らの役割と責任を含む職務分掌等について、文書化するとともに、会議や研修において表明し周知が図られている。	○
<input type="checkbox"/>	平常時のみならず、有事(災害、事故等)における施設長の役割と責任について、不在時の権限委任等を含め明確化されている。	○

【コメント】

有事における施設長の役割と責任については、施設長不在時の権限委任などを含め明確化は行っていないが、何かあった場合には、施設長が全責任を持つことを職員に伝えている。年度初めには、関係機関に挨拶に行ったり、地域近隣へも施設長が挨拶に出向くようにしている。支援が難しいケースについては、担当の職員と一緒に施設長もカンファレンスに参加している。職員からの相談も多い。

②	11 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	a
<input type="checkbox"/>	施設長は、遵守すべき法令等を十分に理解しており、利害関係者(取引事業者、行政関係者等)との適正な関係を保持している。	○
<input type="checkbox"/>	施設長は、法令遵守の観点での経営に関する研修や勉強会に参加している。	○
<input type="checkbox"/>	施設長は、環境への配慮等も含む幅広い分野について遵守すべき法令等を把握し、取組を行っている。	○
<input type="checkbox"/>	施設長は、職員に対して遵守すべき法令等を周知し、また遵守するための具体的な取組を行っている。	○

【コメント】

施設長研修を始め、必要な研修にはできるだけ参加している。また、6月から12月の間に、小規模児童養護施設の設置を視野に入れ、積極的に施設見学に出向いている。施設見学には、施設長だけでなく、現場の職員も一緒に参加している。

(2) 施設長のリーダーシップが発揮されている。		
①	12 養育・支援の質の向上に意欲をもちその取組に指導力を発揮している。	a
<input type="checkbox"/>	施設長は、養育・支援の質の現状について定期的、継続的に評価・分析を行っている。	○
<input type="checkbox"/>	施設長は、養育・支援の質に関する課題を把握し、改善のための具体的な取組を明示して指導力を発揮している。	○
<input type="checkbox"/>	施設長は、養育・支援の質の向上について施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	○
<input type="checkbox"/>	施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の意見を反映するための具体的な取組を行っている。	○
<input type="checkbox"/>	施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の教育・研修の充実を図っている。	○
<input type="checkbox"/>	施設長は、職員の模範となるように、自己研鑽に励み、専門性の向上に努めている。	○

【コメント】

毎日の打ち合わせや各会議に参加して、職員の意見を聞き、施設長の意見も伝え、養育・支援の質の向上を目指して、皆で検討している。職員の意見はできるだけ尊重して、実現可能なことであれば実行している。また、ホームを巡回して、職員の健康状態に変化がないか、職員の顔色や表情を確認している。若い職員には、施設長が個別に対応して、話を聞くこともある。

②	13 経営の改善や業務の実行性を高める取組に指導力を発揮している。	a
<input type="checkbox"/>	施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、人事、労務、財務等を踏まえ分析を行っている。	○
<input type="checkbox"/>	施設長は、施設(法人)の理念や基本方針の実現に向けて、人員配置、職員の働きやすい環境整備等、具体的に取り組んでいる。	○
<input type="checkbox"/>	施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、施設内に同様の意識を形成するための取組を行っている。	○
<input type="checkbox"/>	施設長は、経営の改善や業務の実効性を高めるために施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	○

【コメント】

法人全体の考えとして、職員は常勤で採用している。各ホーム、固定の職員がいるが、経験年数が長く、アドバイザー的な存在としてフリーの職員2名を置き、全体の調整をしている。職員は、学校の行事や子どもの用事、児童相談所との対応などで残業時間が多くなりがちなので、健康状態を整えるために、勤務時間の調整をしている。また、学生のアルバイトを受け入れ、土日や平日の夜に、子どもたちの勉強を見たり、一緒に遊んだりして、職員の負担を軽減するよう努めている。また、各ホームで節電に心がけ、学校の夏休みの宿題の制作も、リサイクル品を使って、作品作りを行ったりしている。

2 福祉人材の確保・育成

<p>(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。</p> <p>① 14 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 必要な福祉人材や人員体制に関する基本的な考え方や、福祉人材の確保と育成に関する方針が確立している。</p> <p><input type="checkbox"/> 養育・支援に関わる専門職(有資格の職員)の配置等、必要な福祉人材や人員体制について具体的な計画がある。</p> <p><input type="checkbox"/> 計画にもとづいた福祉人材の確保や育成が実施されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 法人・施設として、効果的な福祉人材確保(採用活動等)を実施している。</p> <p><input type="checkbox"/> 各種加算職員の配置に積極的に取り組み、人員体制の充実に努めている。</p> <p>【コメント】 必要な福祉人材は、法人全体で採用している。大学や専門学校など各学校を訪問し、就職フェアのブースなどにも積極的に参加している。就職フェアでは、総務の事務局長が説明を行う他に、現場の職員も参加して、職場の魅力などを伝えるようにしている。</p>	<p>第三者 評価結果</p> <p>a</p>	<p>14</p>
<p>② 15 総合的な人事管理が行われている。</p> <p><input type="checkbox"/> 法人・施設の理念・基本方針にもとづき「期待する職員像等」を明確にしている。</p> <p><input type="checkbox"/> 人事基準(採用、配置、異動、昇進・昇格等に関する基準)が明確に定められ、職員等に周知されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 一定の人事基準にもとづき、職員の専門性や職務遂行能力、職務に関する成果や貢献度等を評価している。</p> <p><input type="checkbox"/> 職員処遇の水準について、処遇改善の必要性等を評価・分析するための取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 把握した職員の意向・意見や評価・分析等にもとづき、改善策を検討・実施している。</p> <p><input type="checkbox"/> 職員が、自ら将来の姿を描くことができるような総合的な仕組みづくりができている。</p> <p>【コメント】 人事基準は、明確には定めていない。職務に関する成果や貢献度などの評価は、紙の上で○×を付けたりすることでは表せないと捉えている。職員採用の面接時には、子どもが好きなこと、この仕事が好きであることを求めていることを伝えている。</p>	<p>b</p>	<p>15</p>
<p>(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。</p> <p>① 16 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。</p> <p><input type="checkbox"/> 職員の就業状況や意向の把握等にもとづく労務管理に関する責任体制を明確にしている。</p> <p><input type="checkbox"/> 職員の有給休暇の取得状況や時間外労働のデータを定期的に確認するなど、職員の就業状況を把握している。</p> <p><input type="checkbox"/> 職員の心身の健康と安全の確保に努め、その内容を職員に周知している。</p> <p><input type="checkbox"/> 定期的に職員との個別面談の機会を設ける、職員の悩み相談窓口を施設内に設置するなど、職員が相談しやすいような施設内の工夫をしている。</p> <p><input type="checkbox"/> 職員の希望の聴取等をもとに、総合的な福利厚生を実施している。</p> <p><input type="checkbox"/> ワーク・ライフ・バランスに配慮した取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 改善策については、人材や人員体制に関する具体的な計画に反映し実行している。</p> <p><input type="checkbox"/> 人材の確保、定着の観点から、施設の魅力を高める取組や働きやすい職場づくりに関する取組を行っている。</p> <p>【コメント】 職員の就業状況の把握を行い、特に残業時間が多くないか配慮している。残業時間が多くなると、職員の仕事に対するモチベーションが低下するため、職員個々の顔色などを確認して、モチベーションが低下しないよう配慮している。</p>	<p>a</p>	<p>16</p>
<p>(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。</p> <p>① 17 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 施設として「期待する職員像」を明確にし、職員一人ひとりの目標管理のための仕組みが構築されている。</p>	<p>b</p>	<p>17</p>

<input type="checkbox"/>	個別面接を行う等施設の目標や方針を徹底し、コミュニケーションのもとで職員一人ひとりの目標が設定されている。	
<input type="checkbox"/>	職員一人ひとりの目標の設定は、目標項目、目標水準、目標期限が明確にされた適切なものとなっている。	
<input type="checkbox"/>	職員一人ひとりが設定した目標について、中間面接を行うなど、適切に進捗状況の確認が行われている。	
<input type="checkbox"/>	職員一人ひとりが設定した目標について、年度当初・年度末(期末)面接を行うなど、目標達成度の確認を行っている。	

【コメント】

施設長と職員の面接を、年2回定期的を実施している。新規に入職してきた職員は、採用2ヶ月目頃にも、施設長との面接を行っている。面接では、目標管理シートなどは使用せず、職員の自由な意見を引き出すようにしている。面接では、異動の希望や、次年度の意向など、いろいろな意見が出る。法人内では、障害分野の事業所から、児童養護施設への異動の希望もある。

②	18 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	b
<input type="checkbox"/>	施設が目指す養育・支援を実施するために、基本方針や計画の中に、「期待する職員像」を明示している。	○
<input type="checkbox"/>	現在実施している養育・支援の内容や目標を踏まえて、基本方針や計画の中に、施設が職員に必要とされる専門技術や専門資格を明示している。	
<input type="checkbox"/>	策定された教育・研修計画にもとづき、教育・研修が実施されている。	
<input type="checkbox"/>	定期的に計画の評価と見直しを行っている。	○
<input type="checkbox"/>	定期的に研修内容やカリキュラムの評価と見直しを行っている。	○

18

【コメント】

研修委員を5名置き、内部研修の年間の研修計画を作成している。神児研の研修が月1回あり、どの職員も、年1回は外部研修に参加できるように組み立てている。外部研修の参加者は、希望を取ったり、ホームのリーダーが選んでいる。また、外部研修は、職員自身が参加したい研修を探してくることも多い。外部研修は、勤務時間内に参加する体制をとっている。

③	19 職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。	a
<input type="checkbox"/>	個別の職員の知識、技術水準、専門資格の取得状況等を把握している。	○
<input type="checkbox"/>	新任職員をはじめ職員の経験や習熟度に配慮した個別的なOJTが適切に行われている。	○
<input type="checkbox"/>	階層別研修、職種別研修、テーマ別研修等の機会を確保し、職員の職務や必要とする知識・技術水準に応じた教育・研修を実施している。	○
<input type="checkbox"/>	外部研修に関する情報提供を適切に行うとともに、参加を勧奨している。	○
<input type="checkbox"/>	職員一人ひとりが、教育・研修の場に参加できるよう配慮している。	○

19

【コメント】

新任職員は、コミュニケーションスキルや社会人としてのマナー習得など、法人全体の初任者研修に年間を通して(月1回程度)参加している。内部研修は、研修委員が内容を企画しているが、職員からアンケートを取って、年1回は外部から講師を招いて行っている。SSTも定期的ではないが、行っている。外部研修に参加した場合は、報告書を提出し、職員会議やケース会議の場で、内容を報告している。

(4) 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。

①	20 実習生等の養育・支援に関わる専門職の教育・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	b
<input type="checkbox"/>	実習生等の養育・支援に関わる専門職の教育・育成に関する基本姿勢を明文化している。	
<input type="checkbox"/>	実習生等の養育・支援の専門職の教育・育成についてのマニュアルが整備されている。	
<input type="checkbox"/>	専門職種の特性に配慮したプログラムを用意している。	○
<input type="checkbox"/>	指導者に対する研修を実施している。	
<input type="checkbox"/>	実習生については、学校側と、実習内容について連携してプログラムを整備するとともに、実習期間中においても継続的な連携を維持していくための工夫を行っている。	○

20

【コメント】

実習生の受け入れは、主任が窓口になり、年10名前後を受け入れている。実習生は保育士の養成校からの依頼で、10校前後の学校から受け入れを行っている。現在、2年先の受け入れまでが決まっている。実習終了後、就職やアルバイトにつながったケースや、学習ボランティアの活動につながったケースも多い。

3 運営の透明性の確保

(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。 第三者
評価結果

①	21 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	b	21
	<input type="checkbox"/> ホームページ等の活用により、法人・施設の理念や基本方針、養育・支援の内容、事業計画、事業報告、予算、決算情報が適切に公開されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 施設における地域の福祉向上のための取組の実施状況、第三者評価の受審、苦情・相談の体制や内容について公表している。	○	
	<input type="checkbox"/> 第三者評価の受審結果、苦情・相談の体制や内容にもとづく改善・対応の状況について公表している。	○	
	<input type="checkbox"/> 法人・施設の理念、基本方針やビジョン等について、社会・地域に対して明示・説明し、法人・施設の実存意義や役割を明確にするように努めている。	○	
	<input type="checkbox"/> 地域へ向けて、理念や基本方針、施設で行っている活動等を説明した印刷物や広報誌等を配布している。	○	

【コメント】

年1回、地域交流会を開催している。交流会では、模擬店を出店し、施設のホールなどを開放し、地域の高校のブラスバンド部や地域のサークルのコーラスの演奏などがある。子どもたちの学校の友だちや、地域の人たちが多く参加している。年度の初めには、地域の小学校や中学校を訪れ、PTAIに法人の概要を説明し、施設の部屋を地域に開放していることを紹介している。

(2) 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。 第三者
評価結果

②	22 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	a	22
	<input type="checkbox"/> 施設における事務、経理、取引等に関するルールが明確にされ、職員等に周知している。	○	
	<input type="checkbox"/> 施設における事務、経理、取引等に関する職務分掌と権限・責任が明確にされ、職員等に周知している。	○	
	<input type="checkbox"/> 施設における事務、経理、取引等について、必要に応じて外部の専門家に相談し、助言を得ている。	○	
	<input type="checkbox"/> 施設における事務、経理、取引等について内部監査を実施するなど、定期的に確認されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 外部監査の活用等により、事業、財務に関する外部の専門家によるチェックを行っている。	○	

【コメント】

定期的に外部の会計事務所によるチェックを受けている。社会保険労務士に、産休に入った職員や、出産ぎりぎりまで働く職員への配慮などを相談している。相談は、来所時や電話などで行っている。

4 地域との交流、地域貢献

(1) 地域との関係が適切に確保されている。 第三者
評価結果

①	23 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	a	23
	<input type="checkbox"/> 地域との関わり方について基本的な考え方を文書化している。	○	
	<input type="checkbox"/> 子どもの個別の状況に配慮しつつ地域の行事や活動に参加する際、必要があれば職員やボランティアが支援を行う体制が整っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 施設や子どもへの理解を得るために、地域の人々に向けた日常的なコミュニケーションを心がけている。	○	
	<input type="checkbox"/> 子どもの買い物や通院等日常的な活動についても、定型的でなく個々の子どものニーズに応じて、地域における社会資源を利用するよう推奨している。	○	
	<input type="checkbox"/> 学校の友人等が施設へ遊びに来やすい環境づくりを行っている。	○	

【コメント】

地域の自治会の行事や、地域の子どもの会の活動に積極的に参加している。自治会行事には、夏のお祭りや防災訓練、運動会などがあり、子どもの会の行事には、公園清掃やドッジボールなどがあり、多くの子どもたちが参加している。地域の行事には、職員も参加して手伝っているが、役員などの役割は辞退している。地域の行事には、施設が保有する机や椅子、車なども提供し、協力している。

②	24 ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	b	24
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れに関する基本姿勢を明文化している。		
	<input type="checkbox"/> 地域の学校教育等への協力について基本姿勢を明文化している。	○	
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れについて、登録手続、ボランティアの配置、事前説明等に関する項目が記載されたマニュアルを整備している	○	
	<input type="checkbox"/> ボランティアに対して子どもとの交流を図る視点等で必要な研修、支援を行っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 学校教育への協力を行っている。	○	

【コメント】

学生による学習支援、施設行事の手伝い、リトミックの指導など、多くのボランティアが活動している。夏休みには、シルバー人材センターの学習ボランティアの受け入れも行っている。また、学生中心のボランティアグループ「リーフ」が月1回活動し、子どもたちを水族館に連れていったりしている。学習ボランティアの子どもたちへの勉強の教え方などは、職員も参考にしている。

(2) 関係機関との連携が確保されている。			
①	25 施設として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	b	25
	<input type="checkbox"/> 当該地域の関係機関・団体について、個々の子どもの状況に対応できる社会資源を明示したリストや資料を作成している。		
	<input type="checkbox"/> 職員会議で説明するなど、職員間で情報の共有化が図られている。	○	
	<input type="checkbox"/> 関係機関・団体と定期的な連絡会等を行っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 地域の関係機関・団体の共通の問題に対して、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 地域に適当な関係機関・団体がない場合には、子どものアフターケア等を含め、地域でのネットワーク化に取り組んでいる。		

【コメント】

地域の関係機関との連携としては、地域の自治会、2ヶ所の幼稚園、小・中・高等学校、医療機関、児童相談所を中心とした行政機関などと、日頃から連携を密にとっている。発達障害の子どもが多いことから、子ども医療センターとの関わりも多く持っている。

(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。			
①	26 施設が有する機能を地域に還元している。	b	26
	<input type="checkbox"/> 施設のスペースを活用して地域住民との交流を意図した取組を行っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 施設の専門性や特性を活かし、地域住民の生活に役立つ講演会や研修会等を開催して、地域へ参加を呼びかけている。	○	
	<input type="checkbox"/> 施設の専門性や特性を活かした相談支援事業、支援を必要とする地域住民のためのサークル活動等、地域ニーズに応じ住民が自由に参加できる多様な支援活動を行っている。		
	<input type="checkbox"/> 災害時の地域における役割等について確認がなされている。	○	
	<input type="checkbox"/> 多様な機関等と連携して、社会福祉分野に限らず地域の活性化やまちづくりに貢献している。	○	

【コメント】

施設のパフレットやホームページで、施設の情報提供を行っている。施設が保有する机を貸し出したり、地域に会議室の使用を開放している。地域の自治会の行事には、職員も手伝いで参加している。PTAへの挨拶の際には、養育相談を行っていることを紹介している。年1回行う地域交流会では、AEDの使用方法や幼児蘇生術の講習も行っている。地域の中の災害時の拠点施設でもあることから、地域との関わりを大切にしている。

②	27 地域の福祉ニーズにもとづく公益的な事業・活動が行われている。	b	27
	<input type="checkbox"/> 施設の機能を地域に還元することなどを通じて、地域の福祉ニーズの把握に努めている。	○	
	<input type="checkbox"/> 民生委員・児童委員等と定期的な会議を開催するなどによって、具体的な福祉ニーズの把握に努めている。		
	<input type="checkbox"/> 地域住民に対する相談事業を実施することなどを通じて、多様な相談に応じる機能を有している。		

<input type="checkbox"/> 関係機関・団体との連携にもとづき、具体的な福祉ニーズの把握に努めている。	○
<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズにもとづいて、法で定められた社会福祉事業にとどまらない地域貢献に関わる事業・活動を実施している。	
<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズにもとづいた具体的な事業・活動を、計画等で明示している。	○

【コメント】

核家族化が進み、地域の中で一人で悩んでいる保護者が多いことが想定されるので、地域に向けた養育相談を広げたいと感じている。地域の方が相談しやすい場所となるよう、方法を検討している。地域の中に、施設は古くからあるので、良好な近所付き合いができてはいるが、日頃の挨拶などを子どもも職員も丁寧に行い、今後も地域との良好な関係作りに努めていきたいと考えている。

Ⅲ 適切な養育・支援の実施

1 子ども本位の養育・支援

(1) 子どもを尊重する姿勢が明示されている。	第三者 評価結果	
① 28 子どもを尊重した養育・支援の実施について共通の理解をもつための取組を行っている。	a	28
<input type="checkbox"/> 理念や基本方針に、子どもを尊重した養育・支援の実施について明示し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	○	
<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する「倫理綱領」や規程等を策定し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	○	
<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援実施に関する基本姿勢が、個々の養育・支援の標準的な実施方法等に反映されている。	○	
<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、施設で勉強会・研修を実施している。	○	
<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、定期的に状況の把握・評価等を行い、必要な対応を図っている。	○	

【コメント】

法人の基本理念「一人ひとりの成長、一人ひとりの豊かな生活の実現を目指す」を目標に、午前11時から開催する全体会議や各ホームで行われるミーティングで、支援方法や職員の関わり方などについて、話し合いを行っている。また、法人の基本方針や規程を各職員に配布している。また、「倫理綱領」については、年1回の全体研修で学んだり、職員会議の場で確認している。

② 29 子どものプライバシー保護等の権利擁護に配慮した養育・支援の実施が行われている。	b	29
<input type="checkbox"/> 子どものプライバシー保護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。		
<input type="checkbox"/> 子どもの虐待防止等の権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。	○	
<input type="checkbox"/> 子どものプライバシー保護と虐待防止に関する知識、社会福祉事業に携わる者としての姿勢・責務、子どものプライバシー保護や権利擁護に関する規程・マニュアル等について、職員に研修を実施している。		
<input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもにとって、生活の場にふさわしい快適な環境を提供し、子どものプライバシーを守るよう設備等の工夫を行っている。	○	
<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等にプライバシー保護と権利擁護に関する取組を周知している。	○	
<input type="checkbox"/> 規程・マニュアル等にもとづいた養育・支援が実施されている。	○	
<input type="checkbox"/> 不適切な事案が発生した場合の対応方法等が明示されている。		

【コメント】

子どものプライバシー保護や権利擁護については、職員の価値観や倫理観に多少の違いはあるが、全体で行う月1回のケース会議において、様々な意見交換を行うなかで、適切な方向性が見出せるよう努めている。また、各ホームにおいては、リーダーがスタッフの夜勤明けの場などを活用し、スーパービジョンを提供したり、隣りのホームの職員と夜勤時に情報交換を行いながら、養育・支援の適切な対応のあり方について、日常的に振り返ることができる職場環境を作っている。

(2) 養育・支援の実施に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。		
① 30 子どもや保護者等に対して養育・支援の利用に必要な情報を積極的に提供している。	a	30

<input type="checkbox"/>	理念や基本方針、養育・支援の内容や施設の特性等を紹介した資料を準備している。	○
<input type="checkbox"/>	施設を紹介する資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるような内容にしている。	○
<input type="checkbox"/>	施設に入所予定の子どもや保護者等については、個別に丁寧な説明を実施している。	○
<input type="checkbox"/>	見学等の希望に対応している。	○
<input type="checkbox"/>	子どもや保護者等に対する情報提供について、適宜見直しを実施している。	○

【コメント】

施設見学の際には、リーフレットを渡して、理念や基本方針、養育・支援の内容を説明している。また、口頭でも理念や基本方針を伝えている。子どもの入所後は、保護者の面会時に話をしたり、電話などの問い合わせのなかで、施設での生活の様子などの情報提供を行っている。

②	31 養育・支援の開始・過程において子どもや保護者等にわかりやすく説明している。	a
<input type="checkbox"/>	養育・支援の開始・過程における養育・支援の内容に関する説明と同意にあたっては、子どもや保護者等の自己決定を尊重している。	○
<input type="checkbox"/>	養育・支援の開始・過程においては、子どもや保護者等がわかりやすいように工夫した資料を用いて説明している。	○
<input type="checkbox"/>	説明にあたっては、子どもや保護者等が理解しやすいような工夫や配慮を行っている。	○
<input type="checkbox"/>	養育・支援の開始・過程においては、子どもや保護者等の同意を得たうえでその内容を書面で残している。	○
<input type="checkbox"/>	意思決定が困難な子どもや保護者等への配慮についてルール化され、適正な説明、運用が図られている。	○

31

【コメント】

ホーム内で意思決定が難しい子どもについては、生活の状況に合わせながら、本人が理解しやすい表現方法を用いて、個別に対応している。小規模のホームであるため、子どもたちや保護者との関係性が作りやすく、また、各ホーム職員が3名という体制なので、情報共有しやすい環境にある。ルールという形に捉われず、柔軟に、適切な運用を図ることができている。

③	32 措置変更や地域・家庭への移行等にあたり養育・支援の継続性に配慮した対応を行っている。	b
<input type="checkbox"/>	養育・支援の内容の変更にあたり、従前の内容から著しい変更や不利益が生じないように配慮されている。	○
<input type="checkbox"/>	他の施設や地域・家庭への移行にあたり、養育・支援の継続性に配慮した手順と引継ぎ文書を定めている。	○
<input type="checkbox"/>	施設を退所した後も、施設として子どもや保護者等が相談できるように担当者や窓口を設置している。	○
<input type="checkbox"/>	施設を退所した時に、子どもや保護者等に対し、その後の相談方法や担当者について説明を行い、その内容を記載した文書を渡している。	○

32

【コメント】

これまで、地域や家庭へ移行となったケースは、3ケースある。また、施設退所後の関わりは、児童相談所のケースワーカーと、相談しながら実施している。退所、措置変更にあたっては、子ども、関係者と話し合いを重ね、スムーズな移行ができるようにしている。毎年8月1日の開所記念日のイベントに、退所した子どもたちを招待して、退所後の近況について把握する機会を作っている。

(3) 子どもの満足の向上に努めている。

第三者
評価結果

①	33 子どもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	b
<input type="checkbox"/>	子どもの満足に関する調査が定期的に行われている。	○
<input type="checkbox"/>	子どもへの個別の相談面接や聴取等が、子どもの満足を把握する目的で定期的に行われている。	○
<input type="checkbox"/>	職員等が、子どもの満足を把握する目的で、子ども会等に出席している。	○
<input type="checkbox"/>	子どもの満足に関する調査の担当者等の設置や、把握した結果を分析・検討するために、子ども参画のもとで検討会議の設置等が行われている。	○
<input type="checkbox"/>	分析・検討の結果にもとづいて具体的な改善を行っている。	○

33

【コメント】

子どもの満足の向上を目的とする取り組みは、各ホームで行っている。そのため、各ホームの子ども会議で、ホームごとで実施する旅行の場所や日程を決めたりしている。また、全体の子ども会議を開催して、中庭での遊び方を検討したりしている。これらは職員が中心に決めるのではなく、あくまでも子どもたちが話し合いのなかで、自分たちの意見を言えるような場面を設定してすすめている。ホームでは、就寝前の10分間、職員と子どもが1対1で関わる時間を設けている。時間の使い方も子どもたちが決め、職員と一緒にゲームをしたり、話をしている。

(4) 子どもが意見等を述べやすい体制が確保されている。

①	34 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	b	34
	<input type="checkbox"/> 苦情解決の体制(苦情解決責任者の設置、苦情受付担当者の設置、第三者委員の設置)が整備されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 苦情解決の仕組みをわかりやすく説明した掲示物が掲示され、資料を子どもや保護者等に配布し説明している。		
	<input type="checkbox"/> 苦情記入カードの配布やアンケート(匿名)を実施するなど、子どもや保護者等が苦情を申し出しやすい工夫を行っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 苦情内容については、受付と解決を図った記録が適切に保管している。	○	
	<input type="checkbox"/> 苦情内容に関する検討内容や対応策については、子どもや保護者等に必ずフィードバックしている。	○	
	<input type="checkbox"/> 苦情内容及び解決結果等は、苦情を申し出た子どもや保護者等に配慮したうえで、公表している。		
	<input type="checkbox"/> 苦情相談内容にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	○	

【コメント】

苦情解決責任者は施設長、苦情受付担当者は主任としているが、子どもたちは内容により相手を選び、施設長や主任、ホームの職員に相談している。子どもたちからは、苦情というよりも、「○○を食べたい」などの要望が多い。子ども用の意見箱は特に設置していない。保護者から施設に対して苦情などがあつた際には、児童相談所に連絡することを、直接ハガキで知らせている。子ども会議で決まった「中庭での遊び方」などは、掲示して知らせている。

②	35 子どもが相談や意見を述べやすい環境を整備し、子ども等に周知している。	b	35
	<input type="checkbox"/> 子どもが相談したり意見を述べたりする際に、複数の方法や相手を自由に選べることをわかりやすく説明した文書を作成している。		
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に、その文章の配布やわかりやすい場所に掲示する等の取組を行っている。		
	<input type="checkbox"/> 相談をしやすい、意見を述べやすいスペースの確保等の環境に配慮している。	○	

【コメント】

子どもや保護者に向けて文書は作成していないが、ホームでは、子どもたちが就寝前に10分間程度、一対一で職員と話ができる時間を作っている。少人数のホームなので、職員が自分の意見を先に言わないよう留意し、子どもたちの話を傾聴し、支援を行っている。保護者とは、子どもとの面会などの際に、職員とも話ができる時間を作るようにしている。

③	36 子どもからの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	b	36
	<input type="checkbox"/> 相談や意見を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について定めたマニュアル等を整備している。		
	<input type="checkbox"/> 対応マニュアル等の定期的な見直しを行っている。		
	<input type="checkbox"/> 職員は、日々の養育・支援の実施において、子どもが相談しやすく意見を述べやすいように配慮し、適切な相談対応と意見の傾聴に努めている。	○	
	<input type="checkbox"/> 意見箱の設置、アンケートの実施等、子どもの意見を積極的に把握する取組を行っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 職員は、把握した相談や意見について、検討に時間がかかる場合に状況を速やかに説明することを含め迅速な対応を行っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 意見等にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	○	

【コメント】

各ホームのミーティングの場で、子どもたちの相談や意見の内容を職員間で共有し、柔軟に、迅速に対応していく体制を作っている。対応マニュアルは、特に作成していない。また、意見箱は設置せず、子どもたちがホーム内いつでも職員に相談できる体制を取っている。

(5) 安心・安全な養育・支援の実施のための組織的な取組が行われている。

第三者
評価結果

①	37 安心・安全な養育・支援の実施を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	b	37
---	---	---	----

<input type="checkbox"/>	リスクマネジメントに関する責任者の明確化(リスクマネジャーの選任・配置)、リスクマネジメントに関する委員会を設置するなどの体制を整備している。	
<input type="checkbox"/>	事故発生時の対応と安全確保について責任、手順(マニュアル)等を明確にし、職員に周知している。	○
<input type="checkbox"/>	子どもの安心と安全を脅かす事例の収集が積極的に行われている。	
<input type="checkbox"/>	収集した事例をもとに、職員の参画のもとで発生要因を分析し、改善策・再発防止策を検討・実施する等の取組が行われている。	○
<input type="checkbox"/>	職員に対して、安全確保・事故防止に関する研修を行っている。	○
<input type="checkbox"/>	事故防止策等の安全確保策の実施状況や実効性について、定期的に評価・見直しを行っている。	○

【コメント】

子ども同士の暴力や、性についてのリスクマネジメントが重要と捉えている。性については、「生プロ」委員会があり、各ホームから1名ずつ職員が出席して、性的虐待の原因や防止、子どもに対する性教育のあり方などについて協議している。各ホームにおいて、子どもたちには、「してもよいタッチ」、「してはいけないタッチ」など、具体的な場面を示して教育している。防災訓練や救急救命については、月1回訓練を行っている。また、不審者対応については、ハード面を整備するというのではなく、職員の意識や気付きをもとに対応することができるようにしたいと考えている。

②	38 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	a	38
<input type="checkbox"/>	感染症対策について、責任と役割を明確にした管理体制が整備されている。	○	
<input type="checkbox"/>	感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を作成し、職員に周知徹底している。	○	
<input type="checkbox"/>	担当者等を中心にして、定期的に感染症の予防や安全確保に関する勉強会等を開催している。	○	
<input type="checkbox"/>	感染症の予防策が適切に講じられている。	○	
<input type="checkbox"/>	感染症の発生した場合には対応が適切に行われている。	○	
<input type="checkbox"/>	感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を定期的に見直している。	○	

【コメント】

施設を開所してから現在まで、感染症が発生したことは、これまでない。各ホームのミーティングの場で、子どもたちの体調の変化などを確認し、情報交換を行いながら、感染症の予防に努めている。新任職員は必ず救急救命法の研修に参加し、全職員が消防協会が発行する研修修了カードを持っている。

③	39 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。	b	39
<input type="checkbox"/>	災害時の対応体制が決められている。	○	
<input type="checkbox"/>	立地条件等から災害の影響を把握し、建物・設備類、養育・支援を継続するために必要な対策を講じている。		
<input type="checkbox"/>	子ども及び職員の安否確認の方法が決められ、すべての職員に周知されている。	○	
<input type="checkbox"/>	食料や備品類等の備蓄リストを作成し、管理者を決めて備蓄を整備している。	○	
<input type="checkbox"/>	防災計画等整備し、地元の行政をはじめ、消防署、警察、自治会、福祉関係団体等と連携するなど、体制をもって訓練を実施している。	○	

【コメント】

月1回、防災訓練を行っている。また、小学校や中学校で行われる広域地域避難訓練には、子どもたちと職員が参加している。施設では、地域住民のための防災備蓄品を備えており、地域との連携を大切にしている。施設は住宅地のなかにあり、地域住民も日頃から様々な形で、施設のことを気に掛けてくれている。

2 養育・支援の質の確保

(1)	養育・支援の標準的な実施方法が確立している。	第三者 評価結果	40
①	40 養育・支援について標準的な実施方法が文書化され養育・支援が実施されている。	a	

<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法が適切に文書化されている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法には、子どもの尊重、プライバシーの保護や権利擁護に関わる姿勢が明示されている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法にもとついて実施されているかどうかを確認する仕組みがある。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

各ホームではリーダーを中心に、宿直明けなどの時間を利用しながら、職員間の意見交換を行っている。支援方法については、標準化したなかで行っている。また、ホーム間の情報交換も、宿直時の休憩時間などに行い、他のホームの取り組みを参考にしている。子どもたちの入所に至るまでの様々な背景や、日頃の子どもの言葉や生活の様子をもとにして、養育・支援のあり方を決めている。

②	41 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	a	41
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しに関する時期やその方法が施設で定められている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しが定期的実施されている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、自立支援計画の内容が必要に応じて反映されている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、職員や子ども等からの意見や提案が反映されるような仕組みになっている。	<input type="checkbox"/>	

【コメント】

養育・支援の見直しについては、子どもと保護者の背景を考えながら、ホームは子どもたちにとって家であるため、「家だったらどうなのか」ということを第一にして、日々の養育・支援のあり方を検証し、見直しを行っている。月1回のケース会議の場で、支援が難しいケースについては、全体で話し合い、子どもの最善の利益のための支援方法を考えていく仕組みを作っている。

(2)	適切なアセスメントにより自立支援計画が策定されている。	42	
①	42 アセスメントにもとづく個別的な自立支援計画を適切に策定している。		a
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画策定の責任者を設置している。		<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> アセスメント手法が確立され、適切なアセスメントが実施されている。		<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 部門を横断したさまざまな職種の関係職員(種別によっては施設以外の関係者も)が参加して、アセスメント等に関する協議を実施している。		<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画には、子ども一人ひとりの具体的なニーズが明示されている。		<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を策定するための部門を横断したさまざまな職種による関係職員(種別によっては組織以外の関係者も)の合議、子どもの意向把握と同意を含んだ手順を定めて実施している。		<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画どおりに養育・支援が行われていることを確認する仕組みが構築され、機能している。		<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 支援困難ケースへの対応について検討し、積極的かつ適切な養育・支援が行われている。	<input type="checkbox"/>	

【コメント】

自立支援計画は、各ホームで策定している。施設独自のアセスメントシートを使用してアセスメントを行い、小学生以上の子どもには聴き取りも行い、一人の職員が2名の子どもの計画を策定し、ホームミーティングの場で内容を協議している。策定までのプロセスは、ホームによって多少、異なっている。

②	43 定期的に自立支援計画の評価・見直しを行っている。	b	43
---	-----------------------------	---	----

<input type="checkbox"/>	自立支援計画の見直しについて、見直しを行う時期、検討会議の参加職員、子どもの意向把握と同意を得るための手順等、組織的な仕組みを定めて実施している。	○
<input type="checkbox"/>	見直しによって変更した自立支援計画の内容を、関係職員に周知する手順を定めて実施している。	○
<input type="checkbox"/>	自立支援計画を緊急に変更する場合の仕組みを整備している。	
<input type="checkbox"/>	自立支援計画の評価・見直しにあたっては、標準的な実施方法に反映すべき事項、養育・支援を十分に実施できていない内容(ニーズ)等、養育・支援の質の向上に関わる課題等が明確にされている。	○

【コメント】

自立支援計画の見直しの時期は、年2回あり、各ホームで実施している。評価・見直しにあたっては、「できていること」や「できていないこと」を確認し、「また、どのように手伝っていったらよいか」という視点で評価し、見直している。あらたな項目は、自立支援計画に追加している。施設全体でも共有できるようにしている。

(3) 養育・支援の実施の記録が適切に行われている。

①	44 子どもに関する養育・支援の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化している。	a	44
<input type="checkbox"/>	子どもの身体状況や生活状況等を、施設が定めた統一した様式によって把握し記録している。	○	
<input type="checkbox"/>	自立支援計画にもとづく養育・支援が実施されていることを記録により確認することができる。	○	
<input type="checkbox"/>	記録する職員で記録内容や書き方に差異が生じないように、記録要領の作成や職員への指導等の工夫をしている。	○	
<input type="checkbox"/>	施設における情報の流れが明確にされ、情報の分別や必要な情報が的確に届くような仕組みが整備されている。	○	
<input type="checkbox"/>	情報共有を目的とした会議の定期的な開催等、部門横断での取組がなされている。	○	
<input type="checkbox"/>	パソコンのネットワークシステムの利用や記録ファイルの閲覧等を実施して、施設内で情報を共有する仕組みが整備されている。	○	

【コメント】

養育・支援の実施記録は、情報を共有するためにとても重要であるため、ホームのリーダーが書き方の指導を行っている。自立支援計画策定時のアセスメントについても、職員間で差異が生じないように、指導している。子どもたちに対する支援の記録は、パソコンに入力し、他のホームからもアクセスできるようネットワーク化している。施設の職員が他のホームの子どものことについても情報を共有できるように留意している。

②	45 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	a	45
<input type="checkbox"/>	個人情報保護規程等により、子どもの記録の保管、保存、廃棄、情報の提供に関する規定を定めている。	○	
<input type="checkbox"/>	個人情報の不適正な利用や漏えいに対する対策と対応方法が規定されている。	○	
<input type="checkbox"/>	記録管理の責任者が設置されている。	○	
<input type="checkbox"/>	記録の管理について個人情報保護の観点から、職員に対し教育や研修が行われている。	○	
<input type="checkbox"/>	職員は、個人情報保護規程等を理解し、遵守している。	○	
<input type="checkbox"/>	個人情報の取扱いについて、子どもや保護者等に説明している。	○	

【コメント】

各ホームの子どもに関する過去の記録や、行政からの個人情報に関する文書は、事務所内の鍵のかかる場所に保管している。個人情報の取り扱いについては、ホームミーティングや全体会議の場で説明し、取り扱いを徹底している。子どもたちに関する記録は、各ホームの事務所において保管している。

□ 内容評価基準 (41項目) A-1 子ども本位の養育・支援

(1) 子どもの尊重と最善の利益の考慮	第三者 評価結果	
① A1 社会的養護が子どもの最善の利益を目指して行われることを職員が共通して理解し、日々の養育・支援において実践している。	a	A1

<input type="checkbox"/>	養育・支援の内容が子どもにとって最善の利益になっているかを、振り返り検証する機会が設けられている。	○
<input type="checkbox"/>	子どもの養育や成長にとって何が最善なのかを、職員間において常に話し合える環境にある。	○
<input type="checkbox"/>	職員が日々子どもとのやり取りを振り返り、必要に応じてスーパービジョンを受けられる環境が整っている。	○
<input type="checkbox"/>	受容的・支持的なかかわりを基本としながらも、養育者として伝えるべきメッセージはきちんと伝えるなど、子どもの状況に応じて適切な対応ができるよう、常に子どもの最善の利益を考慮し真摯に向き合っている。	○

【コメント】

子どもの最善の利益は、安心して生活できること、ここに来て良かったと思えることと捉えている。そのためにホームが子どもの生活の場、そして帰ってくるのできる場になっているかどうかを、職員間で常に話し合っている。各ホームのリーダーがスーパーバイザーの役割を担い、必要に応じて、主任や施設長がフォローする仕組みを作っている。

②	A2 子どもの発達段階に応じて、子ども自身の出生や生い立ち、家族の状況について、子どもに適切に知らせている。	a
<input type="checkbox"/>	子どもの発達段階等に応じて、適切に事実を伝えようと努めている。	○
<input type="checkbox"/>	事実を伝える場合には、個別の事情に応じて慎重に対応している。	○
<input type="checkbox"/>	伝え方や内容などについて職員会議等で確認し、職員間で共有している。	○
<input type="checkbox"/>	事実を伝えた後、子どもの変容などを十分把握するとともに、適切なフォローを行っている。	○

A2

【コメント】

ホーム内でも、子どもたち一人ひとり、理解力が異なるので、職員の支援のあり方にズレが生じないようにしている。子どもたちにとっての希望は親と住むことではあるが、それらが難しい状況を、すべての子どもに伝えることは困難な状況もある。親のいない子どもにとっては、事実を伝えることで精神的に崩れてしまうこともあるので、それぞれの背景に配慮しながら、一人ひとりの子どもに寄り添うことを大切にしている。

(2) 権利についての説明

①	A3 子どもに対し、権利について正しく理解できるよう、わかりやすく説明している。	b
<input type="checkbox"/>	定期的に全体の場で権利についての理解を深めるよう、子どもたちに説明している。	○
<input type="checkbox"/>	権利ノートやそれに代わる資料等を使用して、施設生活の中で保障されるさまざまな権利についてわかりやすく説明している。	○
<input type="checkbox"/>	年齢に配慮した説明を工夫している。(例えば高校生、中学生、小学生などに分けた説明の機会)	○
<input type="checkbox"/>	定期的に職員間で子どもの権利に関する学習機会を持っている。	○
<input type="checkbox"/>	子ども一人ひとりがかけがえのない大切な存在であり、自分を傷つけたりおとしめたりしてはならないことまた、他人を傷つけたり脅かしたりしてはならないことが、日々の養育の中で伝わっている。	○

A3

【コメント】

権利ノートは、子どもたちが入所する際に手渡し、年齢に配慮しながら、説明している。ノートの説明は1回だけだが、ホームでの生活場面のなかで、他人の部屋に勝手に入るのはいけないこと、暴力はいけないことなどを話し合い、他者を大切にすることや、相手のプライバシーを守るなどについて、学習の機会を作るようにしている。

(3) 他者の尊重

①	A4 様々な生活体験や多くの人たちとのふれあいを通して、他者への心づかいや他者の立場に配慮する心が育まれるよう支援している。	a
<input type="checkbox"/>	基本的な信頼感を獲得するなど良好な人間関係を築くために職員と子どもとが個別にふれあう時間を確保している。	○
<input type="checkbox"/>	喧嘩など子ども間でトラブルが生じた場合、相手の人格を尊重しながら、基本的には子ども同士で関係を修復できるよう支援をしている。	○
<input type="checkbox"/>	日々の生活や行事等で、子どもが協働して行う場面では、助け合い、認め合い、協力し合い、感謝し合う態度を促進するよう支援している。	○

A4

<input type="checkbox"/> 年下の子どもや障がいのある子どもなど弱い立場にある仲間に対しては、思いやりの心をもって接するように支援している。	○	
【コメント】		
<p>特別支援学級に通学している子どももいて、それらに配慮したり、年齢に合わせた説明を行っている。ホームでは、子ども同士が、お互いの苦しいことをフォローする環境がある。また、遊びや子ども会議、クリスマス会の行事などでは、こどもたちが協働して、食事づくりや準備などの手伝いをしている。年少の子どもや障害を持つ子どもに何かがあると、他の子どもが守ったりする関係性もできている。最初は男女別、年齢別でフロアを分けることも考えたが、家庭のなかでは男女一緒に生活しているのが普通なので、同じユニット内に男女一緒、年齢もまちな子どもたちが生活して、家庭のようなホームにしている。</p>		
(4) 被措置児童等虐待対応		
① A5 いかなる場合においても体罰や子どもの人格を辱めるような行為を行わないよう徹底している。	a	A5
<input type="checkbox"/> 「就業規則」等の規程に体罰等の禁止を明記しており、規程に基づいて厳正に処分などを行う仕組みが行われている。	○	
<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待防止ガイドラインに示されているような具体的な例を示して、日常的な会議や研修会等で体罰等を禁止している。	○	
<input type="checkbox"/> 被措置児童等への虐待行為や不適切対応があった場合、主管行政窓口や児童相談所等に報告するとともに第三者委員等も入れて適切な調査をし、対処することが出来ている。	○	
【コメント】		
<p>子どもたちのほとんどが、保護者からネグレクトなどの虐待を受けた経験があり、年齢相応の社会経験が乏しい現実がある。職員の支援により、それらの虐待の過去を消すことはできないが、子ども同士の関係を通して、それらが癒されていく環境が作られている。ホームミーティングで、子どもたち一人ひとりの生い立ちなどを理解し、支援につなげている。</p>		
② A6 子どもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	a	A6
<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりがあった場合を想定して、施設長が職員・子ども双方にその原因や方法・程度等、事実確認をすることや、「就業規則」等の規程に基づいて厳正に処分を行うような仕組みがつけられている。	○	
<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりを発見した場合には、記録し、必ず施設長等に報告することが明文化されている。	○	
<input type="checkbox"/> 暴力、人格的辱め、心理的虐待などの不適切なかかわりの防止について、具体的な例を示し、職員に徹底している。	○	
<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止を徹底するため、日常的に会議等で取り上げ、行われていないことを確認している。	○	
<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止について、具体的な例を示して、子どもに周知している。	○	
<input type="checkbox"/> 子どもが自分自身を守るための知識、具体的方法について学習する機会を設けている。	○	
【コメント】		
<p>不適切な関わりにつながらないように、ホームミーティングなどで、職員が自分自身のとった子どもへの行動を具体的に説明することになっている。また、リーダーを中心にして、不適切な関わりの防止に向け、日々の支援内容の振り返りを行っている。</p>		
③ A7 被措置児童等虐待の届出・通告に対する対応を整備し、迅速かつ誠実に対応している。	b	A7
<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告制度について、対応マニュアルが整備され、かつ日常的に活用できるようにしている。	○	
<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告があった場合に、届出者・通告者が不利益を受けることのない仕組みが整備・徹底されている。	○	
<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待が疑われる事案が生じたときに、施設内で検証し、第三者の意見を聞くなどの迅速かつ誠実な対応をするための体制整備ができている。	○	
<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告制度について説明した資料を子ども等に配布、説明しているとともに、掲示物を掲示するなどして、子どもが自ら訴えることができるようにしている。	○	
【コメント】		

児童相談所と連絡をとりながら、迅速かつ誠実に対応できるよう、体制作りを行っている。ただし、子どもたちに対しては、掲示物や資料配布などは特に行っていない。

(5) 思想や信教の自由の保障

①	A8 子どもや保護者等の思想や信教の自由を保障している。	a	A8
	<input type="checkbox"/> 子どもの思想・信教の自由については、最大限に配慮し保障している。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 施設において子どもの思想や信教の自由を保障しようと努めているが十分ではない。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 保護者等の思想・信教によってその子どもの権利が損なわれないよう配慮している。	<input type="checkbox"/>	

【コメント】

子どもたちや保護者の思想などの自由は、制限していない。

(6) こどもの意向や主体性への配慮

①	A9 子どものそれまでの生活とのつながりを重視し、そこから分離されることに伴う不安を理解し受けとめ、不安の解消を図っている。	a	A9
	<input type="checkbox"/> 入所した時、温かく迎える準備をしているなど様々な工夫を凝らし、受け入れについて施設全体で行っている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 被虐待体験だけでなく、子どもの分離体験に関して施設側が理解し、配慮している。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 分離体験からの回復に関する課題への具体的な取組を行っている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 入所の相談から施設での生活が始まるまで、子どもや保護者等への対応についての手順を定めており、定期的に見直しを行い、実践している。	<input type="checkbox"/>	

【コメント】

子どもの入所の受け入れ時には、乳児院や児童相談所に事前に面会に行き、リーフレット（職員の顔写真が添付されている）などをもとに説明しながら、安心感を持ってもらえるように配慮している。また、職員の退職は子どもたちのショックが大きいため、施設の開所記念日のイベントなどには、退職した職員にも参加してもらい、子どもたちとの関係性を少しでも継続できるよう配慮している。

②	A10 職員と子どもが共生の意識を持ち、子どもの意向を尊重しながら生活全般について共に考え、生活改善に向けて積極的に取り組んでいる。	a	A10
	<input type="checkbox"/> 生活改善に向けての取組を職員と子どもが共に考え、実施している。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 生活日課や生活プログラムは子どもとの話し合いを通じて策定している。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 子どもが自分たちの生活における問題や課題について主体的に検討する機会を日常的に確保している。	<input type="checkbox"/>	

【コメント】

特別支援学級に通学している子どもについては、生活の流れをある程度ルーティン化して、暮らしやすくなるよう配慮している。子どもたちの自立を一番に置き、就寝前の時間の子どものやりとりで出てくる意見を大切に、日常の生活場面でも子どもたちの話を傾聴していく姿勢を大切にしている。

(7) 主体性、自律性を尊重した日常生活

①	A11 日々の暮らしや、余暇の過ごし方など健全な生活のあり方について、子ども自身が主体的に考え生活できるよう支援している。	a	A11
	<input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもの趣味や興味、生活文化にあった生活になるように子どもの意見を反映させ、適宜変更している。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 図書、雑誌、新聞等、またテレビ、ビデオ、オーディオ等が、子どもの確かな発達に考慮したうえで、自由に使用できる。また、ゲームの適切な使用の配慮がされている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 子どもが主体的に生活に関わることができるよう工夫がされている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 活動に対して自発的な参加を促すよう支援している。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 行事等の参画について、子ども一人ひとりの選択を尊重している。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 子どもが地域の活動等に参加することを望む場合、可能な限りそれに応えている。	<input type="checkbox"/>	

【コメント】
 子どもたちは、関心がある習い事を行っている。体操クラブやチャアリーディングなどの活動の場が地域のなかなので、地域との関係も育まれている。各ホームには書庫を備えている。パソコンについては各ホームには設置していないが、希望すれば使用することができるようにしている。また、様々な招待行事があり、参加する子どもが偏らないよう配慮しながら参加している。参加するかどうかは、子どもたち自身が決めている。小さい子どもも自分の自転車を欲しがると、小学校に入った際に購入することを説明している。

②	A12 子どもの発達段階に応じて、金銭の管理や使い方など経済観念が身につくよう支援している。	a	A12
	<input type="checkbox"/> 小遣い帳や通帳を使って、限られたお金を計画的に使用する、金銭の自己管理ができるよう支援している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 大人と一緒に買物に行ったり、一人で買物をさせるなど物の値段の相場や、金銭感覚が身につくよう支援している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 自立を控えた子どもなど、必要な子どもに対し、一定の生活費の範囲で生活することを学ぶプログラムを実施している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 児童手当等について、子どもの目的にあわせ適切に使用または貯蓄をしている。	<input type="radio"/>	

【コメント】
 小遣いの金額は、未就学児は月1,000円、小学校1年～6年生は2,000円、中学校1年～3年生は3,000円、高校1年～3年生は5,000円だが、そのうちの一定額は貯金するようにしている。子どもたちは、コンビニでジュースを買ったり、遊び道具のブロックを購入したりしている。また、児童手当についても、退所後のことを考えて貯金している。

(8) 継続性とアフターケア

①	A13 家庭復帰にあたって、子どもが家庭で安定した生活を送ることができるよう復帰後の支援を行っている。	b	A13
	<input type="checkbox"/> 家庭復帰にあたって復帰後の生活を検討している。		
	<input type="checkbox"/> 家庭復帰後の子どもや家族の状況把握や支援方法など関係機関との役割を明確にしている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 家庭復帰相談を受けることを本人、保護者等に伝えている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 家庭復帰後の子どもや保護者等の状況の把握に努め記録を整備している。	<input type="radio"/>	

【コメント】
 開所してから現在に至るまで、家庭復帰のケースは少ない。施設の姿勢として、まずは保護者が落ち着いて生活できる状況になるまで待つこととし、早急な対応は行わないようにしている。子どもたちが18歳になるまで支援するスタンスを取っている。子どもたちの気持ちや、保護者の状況を把握しながら対応しているが、今後は見直しの必要性も感じている。

②	A14 できる限り公平な社会へのスタートが切れるように、措置継続や措置延長を積極的に利用して継続して支援している。	c	A14
	<input type="checkbox"/> 高校進学が困難な子どもや高校中退の子どもなどについて措置継続を行い、自立に向けた支援を行っている。		
	<input type="checkbox"/> 措置延長の期間は、就労支援や就労生活を支援するなど、自立への道筋をつけていく取組を行っている。		
	<input type="checkbox"/> 高校卒業して進学あるいは就職した子どもであっても、不安定な生活が予想される場合は、必要に応じて措置延長を利用して支援を継続している。		

【コメント】
 措置継続、措置延長の制度を活用したケースは、これまでない。

③	A15 子どもが安定した社会生活を送ることができるようリービングケアと退所後の支援に積極的に取り組んでいる。	a	A15
	<input type="checkbox"/> 子どものニーズを把握し、退所後の生活に向けてリービングケアの支援を行っている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 退所後も施設に相談できる窓口(担当者)があり、支援をしていくことを伝えている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 退所者の状況の把握に努め、記録が整備されている。	<input type="radio"/>	

<input type="checkbox"/>	行政機関や福祉機関、あるいは民間団体等と連携を図りながらアフターケアを行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	日本人からの連絡だけでなく、就労先、アパート等の居住先からの連絡、警察等からのトラブル発生の連絡などにも対応している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	退所者が集まれる機会や、退所者と職員・入所している子どもとが交流する機会を設けている。	<input type="radio"/>
【コメント】		
<p>今年、特別支援学級に通学していた3名の退所者がいて、同一法人内のグループホームを利用することになった。グループホームの職員と連携をとりながら、職員がカンファレンスに参加したり、子どもたちも事前に何回かグループホームに遊びに行ったりしながら、環境に慣れるためのリービングケアを行った。また、退所した子どもたちとは、8月1日の開所記念日に招待し、交流している。</p>		

A-2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の基本		第三者 評価結果	
①	A16 子どもを理解し、子どもが表出する感情や言動をしっかり受け止めている。	a	A16
	<input type="checkbox"/>	職員はさまざまな知見や経験によって培われた感性に基づいて子どもを理解し、受容的・支持的な態度で寄り添い、子どもと共に課題に向き合っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/>	子どもの生育歴を知り、そのときどきで子どもの心に何が起こっていたのかを理解している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/>	子どもが表出する感情や言動のみを取り上げるのではなく、被虐待体験や分離体験などに伴う苦痛・いかり、見捨てられ感も含めて、子どもの心に何が起こっているのかを理解しようとしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/>	子どもに行動上の問題等があった場合、単にその行為を取り上げて叱責するのではなく、背景にある心理的課題の把握に努めている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/>	子ども達に職員への信頼が芽生えていることが、利用者アンケートを通じて感じられる。	<input type="radio"/>
【コメント】			
<p>子どもの生育歴の記録を繰り返し読み、理解した上で、子どもたちの感情や言動を受け止めるよう努めている。1ホームの6人の子どもたちが、幅広い年齢で生活していることのメリットを活用していきたいと思っている。職員は、子どもたちと一緒に食事や入浴、就寝前の読み聞かせの場面、また、一人ひとりに向き合う日々の時間の中で、子どもたちの話に耳を傾けるようにしている。</p>			
②	A17 基本的欲求の充足が、子どもと共に日常生活を構築することを通してなされるよう養育・支援している。	a	A17
	<input type="checkbox"/>	子ども一人ひとりの基本的欲求を把握している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/>	基本的欲求の充足において、子どもと職員との関係性を重視している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/>	高齢児の日課は、秩序ある生活の範囲内で子どもの意思を尊重した柔軟なものとなっている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/>	子どもにとって身近な職員が一定の裁量権を有し、個々の子どもの状況に応じて柔軟に対応できる体制となっている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/>	基本的な信頼関係を構築するために職員と子どもが個別に触れ合う時間を確保している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	夜目覚めるとき大人が存在が感じられるなど安心感に配慮している。	<input type="radio"/>	
【コメント】			
<p>1ホームに子ども6人と職員3人が生活し、子どもたちは一人部屋の個室で生活している。共用のリビングやキッチンがあり、子どもたち一人ひとりに合わせた椅子や席、食器などを揃えている。家庭的な生活を構築できるようハード面を整えている。職員は幼児の部屋で就寝し、一緒に入浴し、キッチンで調理し、一緒に食事を摂っている。子どもたちは一人ひとり成長の速さが違うため、一律に物事を進めず、柔軟な対応を取るようにしている。一人ひとりに向き合い、話を聞く時間を毎日必ず作るようにしている。</p>			
③	A18 子どもの力を信じて見守るという姿勢を大切に、子どもが自ら判断し行動することを保障している。	a	A18
	<input type="checkbox"/>	子どもがやらなければならないことや当然できることについては、子ども自身が行うように見守ったり、働きかけたりしている。	<input type="radio"/>

<input type="checkbox"/>	職員は必要以上の指示や制止をしていない。	○
<input type="checkbox"/>	子どもを見守りながら状況を的確に把握し、賞賛、励まし、感謝、指示、注意等の声かけを適切に行っている。	○
<input type="checkbox"/>	つまずきや失敗の体験を大切にし、主体的に問題を解決していくよう支援し、必要に応じてフォローしている。	○
<input type="checkbox"/>	朝・夕の忙しい時間帯にも、職員が子どもを十分に掌握、援助できるように、職員の配置に配慮している。	○

【コメント】

子どもたちは、ここで学び、巣立っていくので、自立した生活を送ることができるよう、できる限りの支援を行っている。それぞれの発達に合わせて、配膳や調理を手伝ったり、洗濯や整理整頓を自分で行うことができるよう促している。子どもたちは目標を持ち、日々の繰り返しの中で、大丈夫だと判断したときには、子どもたち自身が行なえるよう見守り、活動範囲を広げられるようにしている。子どもたちはお小遣いを、自分で管理している。ルールは最小限にして、普通の体験ができるようにしている。

④	A19 発達段階に応じた学びや遊びの場を保障している。	b	A19
<input type="checkbox"/>	施設内での保育が、年齢や発達状況に応じたプログラムの下、実施されている。		
<input type="checkbox"/>	日常生活の中で、子どもたちの学びや遊びに関するニーズを把握できている。必要性があれば可能な限りニーズに応えている。	○	
<input type="checkbox"/>	幼児から高校生まで、年齢段階に応じた図書などの文化財、玩具・遊具が用意、利用されている。		
<input type="checkbox"/>	学校や地域にある子どもたちの学びや遊びに関する情報を把握し、必要な情報交換ができています。	○	
<input type="checkbox"/>	子どものニーズに応えられない場合、子どもがきちんと納得できる説明がされている。	○	
<input type="checkbox"/>	幼稚園に就園させている。	○	
<input type="checkbox"/>	子どもの学びや遊びを保障するための、資源(ボランティア等)が十分に活用されている。		

【コメント】

各ホームで6人の子どもが生活しているが、年齢に幅があるため、ホーム内に、共通したプログラムを作るのは難しい現状がある。各ホームに、本やおもちゃを用意しているが、それぞれの年齢や発達段階に応じた「量」は、不足していると感じている。子どもたちがのびのびと外で遊ぶことができる場所を作ることができないか、現在検討中である。幼児は幼稚園に通っている。また、子どもたちには、サッカーやバドミントン、ピアノなどの習い事に取り組むことができるようにしてしている。習い事での保護者の役割は職員が担っている。

⑤	A20 秩序ある生活を通して、基本的な生活習慣を確立するとともに、社会常識及び社会規範、様々な生活技術が習得できるよう養育・支援している。	a	A20
<input type="checkbox"/>	職員の指示や声かけが適切で、施設全体が穏やかな雰囲気の中で秩序ある生活が営まれている。	○	
<input type="checkbox"/>	普段から、職員が振る舞いや態度で模範を示している。	○	
<input type="checkbox"/>	施設生活・社会生活の規範等守るべきルール、「しなければならないこと」と「してはならないこと」を理解できるよう子どもに説明し、責任ある行動をとるよう支援している。	○	
<input type="checkbox"/>	見やすくわかりやすい掲示物など、子どもが社会生活を営む上で必要な知識や技術を日常的に伝え、子どもがそれらを習得できるよう支援している。	○	
<input type="checkbox"/>	地域社会への積極的参加を図る等、社会的ルールを習得する機会を設けている。	○	

【コメント】

中庭のルールや学習室のルールなど、子どもたちを集めて話をしている。幼い子どもにはわかりやすいように、言葉だけでなく絵も使いながら伝えている。職員の振る舞いや言葉遣いをきちんとすることで、子どもたちの模範となるようにしている。職員同士も、きちんと話し合い、苦手なことにも取り組む姿勢や、改善する姿勢を、子どもたちに伝えるようにしている。法人全体で、地域との関わりを密に取っているため、地域のイベントやお祭りには、子どもたちが多く参加している。

(2) 食生活

①	A21 食事は、団らんの場でもあり、おいしく楽しみながら食事ができるよう工夫している。	a	A21
---	---	---	-----

<input type="checkbox"/> 食事の時間が適切で、食事を通して生活のリズムが形成されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 無理なく楽しみながら食事ができるように、年齢や個人差に応じて食事時間に配慮している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 食事場所は明るく楽しい雰囲気、常に清潔が保たれている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 食事の時間が、職員と子ども、そして子ども同士のコミュニケーションの場として機能するよう工夫している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 陶器の食器等を使用したり、盛りつけやテーブルの飾りつけの工夫など、食事をおいしく食べられるように工夫している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> クラブ活動等子どもの事情に応じて、温かいものは温かく、冷たいものは冷たくという食事の適温提供に配慮している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 施設外での食事、来客を迎えるための食事など、食事を楽しむ多様な機会を設けている。	<input type="radio"/>

【コメント】

子どもたちは、職員と一緒に、リビングのテーブルを囲んで、食事を摂っている。テーブルの席は場所を決め、自分の席で食事を摂りながら団欒している。職員は、食事中の子どもたちの様子を観察しながら、学校での話題や流行りのアニメの話などで、会話がはずむよう働きかけている。各ホーム、子どもたちの年齢が様々なので、食事の量や食べる速さも、異なっている。部活動などで夕飯が遅くなる子どもには、電子レンジで温めて出しているが、居室では食べず、リビングで皆と過ごしながら摂取している。昼食のお弁当は、子どもたちそれぞれのお弁当箱に厨房で詰めてもらっている。

②	A22 子どもの嗜好や健康状態に配慮した食事を提供している。	a	A22
	<input type="checkbox"/> 配慮のこもった献立であるとともに子どもの発育に必要な栄養摂取量を満たした食事を提供している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 定期的に残食の状況や子どもの嗜好を把握するための取組がなされ、それが献立に反映されている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 子どもの年齢、障害や疾病、食物アレルギーなど子どもの心身の状況、また体調など日々の健康状態に応じ、それらに配慮した食事を提供している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 少数の子どもを対象として家庭的な環境の下で調理するときであっても、配慮のこもった献立であり栄養面も勘案されるよう、献立について振り返る機会がある。	<input type="radio"/>	

【コメント】

朝食のパンは、同一法人内の障害者就労施設から仕入れている。食パン以外にも、子どもが喜ぶ形のパンを取り入れている。夕食は、週4回は各ホームのキッチンで、職員が子どもたちの前で調理し、週3回は、厨房で調理したものを配膳している。ホーム内のキッチンでの調理は、香りや湯気で子どもたちも集まってくる。ホーム内の調理は、男性職員も女性職員も関わっている。全体の栄養管理は、栄養士と厨房（委託業者）が協力して行っている。また、土曜の夕食は、子どもたちのリクエストメニューを取り入れている。食物アレルギーがある子どもには、アレルギーに配慮した食事を提供している。

③	A23 子どもの発達段階に応じて食習慣を身につけることができるよう食育を推進している。	a	A23
	<input type="checkbox"/> 食習慣の習得を、無理なく楽しみながら身につけられるよう工夫している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 日々提供される食事について献立の提示等食に関する情報提供等を行っている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 食品分類やおやつの摂り方等、栄養についての正しい知識を教えている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 偏食の指導を適切に行っている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 郷土料理、季節の料理、伝統行事の料理などに触れる機会をもち、食文化を継承できるようにしている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 買い物を手伝って材料の選び方を知る機会を設けている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 箸、ナイフ・フォーク等食器の使い方や食事のマナーが習得できるよう支援している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 基礎的な調理技術を習得できるよう、食事やおやつを作る機会を設けている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> テーブル拭き、食器洗い、食器消毒、残飯処理など食後の後片づけの習慣が習得できるよう支援している。	<input type="radio"/>	

【コメント】

食事の配膳は、子どもたちが手伝っている。下膳の際には、小学生は食器類をカウンターに戻すところまでを行い、中学生ぐらいになると、自分の食器は自分で洗っている。子どもたち一人ひとりの発達の状況に合わせ、自分でできることを増やしていくよう配慮している。偏食のある子どもには、無理強いないようにして勧めている。食事中、子ども同士が「食べないとだめ」などと、会話していることもある。楽しい雰囲気の中で、好き嫌いをなく食べることの大切さを伝えている。また、盛り付けの時点で、自分が食べられる量の見当がつけられるようにしていきたいと思っている。おやつは個別に時間や量を決めて、限りなく食べてしまうことのないよう配慮している。

(3) 衣生活

①	A24 衣類が十分に確保され、子どもが衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。	a	A24
	<input type="checkbox"/> 常に衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものを着用している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 汚れた時にすぐに着替えることができ、またTPOに合わせた服装ができるよう、十分な衣類が確保されている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 靴についても清潔で体に合ったものが提供され、汚れや水濡れにも適切に対応している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 気候、生活場面、汚れなどに応じた選択、着替えや衣類の整理、保管などの衣習慣を習得させている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 洗濯、アイロンかけ、補修等衣服の管理を子どもの見えるところで行うよう配慮している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 衣服を通じて子どもが適切に自己表現をできるように支援している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 発達段階や好みに合わせて子ども自身が衣服を選択し購入できる機会を設けている。	<input type="radio"/>	

【コメント】

衣服の購入は、子どもたちと一緒に買物に出掛け、子どもたちは自分の好みのものを選んでいく。衣替えのシーズンには、服を新調し、冬場はコートや手袋、マフラーを準備している。中学生ごろから、洗濯は自分で行き、子どもたちは自分で洗濯機を回している。入浴と洗濯機を使用する順番がほぼ同じで、子どもたちは声を掛け合っている。小学生の衣類の洗濯は職員が行っているが、引き出しへの収納は、子どもたちが職員と一緒にしている。その日何を着るかは子供たちが自由に選んでいるが、子どもによっては、こだわりが強く、「着替える」ことが難しい子どももいるので、声掛けの仕方を工夫している。

(4) 住生活

①	A25 居室等施設全体がきれいに整美されている。	a	A25
	<input type="checkbox"/> 庭がきれいに清掃され、樹木や草花の植栽にも配慮が届いている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 室内は明るく、花や絵画が飾られるなど、温かみのある環境になっている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 食堂やリビングなどの共有スペースは常にきれいにし、家庭的な雰囲気になるよう配慮している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> トイレ、洗面所等は性別や年齢に応じて使いやすいように配慮している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて、冷暖房設備を整備している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 設備や家具什器について、汚れていたり壊れていたりしていない。破損箇所については必要な修繕を迅速に行っている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 発達段階や子どもの状況に応じて日常的な清掃や大掃除を行い、居室等の整理整頓、掃除等の習慣が身につくようにしている。	<input type="radio"/>	

【コメント】

どのホームも清潔で明るいホーム作りをしている。また、ホームごとに子どもたちのカラーが出せるようにしている。リビングには、テレビや本、ボードゲームが置いてある。各ホーム、年齢が様々なので、子どもたちの成長に合わせた椅子を用意している。居室にはエアコンを整備し、温度管理や操作も自分でできるように声掛けしている。掃除の日を決め、自分の部屋は自分たちで掃除している。幼い子どもは、職員と一緒にできるところまで行っている。片付けができず言い訳をしたり、うるさかったりする子どももいるが、物を大事に扱い、身の回りのことが自己管理ができるように働きかけている。樹木等については定期的に業者による剪定作業を入れている。

②	A26 子ども一人ひとりの居場所が確保され、安全、安心を感じる場所となるようにしている。	a	A26
	<input type="checkbox"/> 小規模グループでの養育を行う環境づくりに配慮している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> リビングや居室は子どもが安心していられる場所になるような配慮がされている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 中学生以上は個室が望ましいが、相部屋であっても個人の空間を確保している。	<input type="radio"/>	

年少児の居室は、職員の目の届きやすいところに配置している。

【コメント】

各ホーム、子どもたちの居室は個室を原則とし、幼い兄弟の場合は二人部屋にすることもある。ホームでは、他の子どもの居室には入らない約束があり、職員も子どもの許可なく居室には入らないように決めている。外から友人が遊びにきた時は、居室で遊んでもよいが、ドアは開けておくルールがある。居室は、一人になりたい時に中から鍵を掛けることもできる。外出時には、ドアを開け放していく子どももいれば、施錠していく子どももいる。施錠は自由だが、緊急時はマスターキーで解錠することを、子どもたちに伝えている。

(5) 健康と安全

①

A27 発達段階に応じ、身体の健康（清潔、病気、事故等）について自己管理ができるよう支援している。

a

A27

常に良好な健康状態を保持できるよう、睡眠、食事摂取、排泄、生理等の状況を職員がきちんと把握している。

手洗いやうがいの習慣が身に付くよう支援している。年少児については排泄後の始末や入浴の介助をしている。

洗面、整髪、ひげそり、歯磨き、つめ切り、耳そうじ等身だしなみについて、発達に応じて自ら行えるよう支援している。また必要に応じて入浴やシャワーが利用できるなどの配慮がされている。

定期的に理美容をしている。

寝具の日光消毒や衣類などを清潔に保つなど、衛生管理ができるよう支援している。また夜尿のある子どもについては、子どもの自尊心に配慮しながら支援している。

施設内外における危険箇所等を把握し、子どもの発達段階に応じて、危険物の取扱いや危険な物・場所・行為から身を守るための支援を行っている。

子どもの交通事故を防止するため、交通ルール等について日頃から子どもに教えている。

【コメント】

年少児は職員と一緒に入浴し、夜は職員が子どもの部屋で一緒に就寝している。夜尿のため、夜は紙パンツを使用している小学生が数名おり、夜尿外来に受診している。職員は、施設内外の危険箇所を把握するようにしている。自転車の練習では「3回合格をもらったら公園まで出かけてもいいよ」と伝え、子どもたちの成長を見極めながら、行動範囲を広げられるようにしている。職員と一緒に外出する時には、交通ルールを教え、交番の場所を確認しながら歩いたりしている。シャンプーやリンスなど、子どもたちは自分の好きなものを使用している。

②

A28 医療機関と連携して一人ひとりの子どもに対する心身の健康を管理するとともに、必要がある場合は適切に対応している。

a

A28

子どもの平常の健康状態や発育・発達状態を把握し、定期的に子どもの健康管理に努めている。

あらかじめ関係機関の協力が得られるよう体制整備をしている。

健康上特別な配慮を要する子どもについては、医療機関と連携して、日頃から注意深く観察し、対応している。

受診や服薬が必要な場合、子どもがその必要性を理解できるよう、説明している。服薬管理の必要な子どもについては、医療機関と連携しながら服薬や薬歴のチェックを行っている。

職員間で医療や健康に関して学習する機会を設け、知識を深める努力をしている。

【コメント】

療育手帳を持つ子どもが半数いる。内科、精神科、歯科、耳鼻科と、通院は多い。服薬（抗精神薬、ぜんそく予防薬、抗アレルギー薬など）の必要な子どもも多く、看護師が中心になって服薬管理や状態観察を行い、申し送り確認している。子どもたちが自分の病気を理解できるよう、やりとりを重ねている。排便表など健康状態が把握できる記録を取っている子どももいる。病気について、看護師を交えてのミーティングで、必要な知識を深める努力をしている。

(6) 性に関する教育

①

A29 子どもの年齢・発達段階に応じて、他者の性を尊重する心を育てるよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている。

b

A29

他者の性を尊重し、年齢相応で健全な他者との付き合いができるよう配慮している。

<input type="checkbox"/> 性をタブー視せず、子どもの疑問や不安に答えている。	
<input type="checkbox"/> 性についての正しい知識、関心を持てるよう、年齢、発達段階に応じたカリキュラムを用意し、支援している。	○
<input type="checkbox"/> 必要に応じて外部講師を招く等して、性教育のあり方について学習会などを職員や子どもに対して実施している。	○

【コメント】

小学校中学年から、性の勉強グループに年3回参加し、人の身体の仕組みを学び、性の知識を得られるようにしている。女子は女性職員が中心になり、生理の対応に慌てないように準備している。職員が異性との交際を否定すると、隠したり、嘘をついたりするので、同性の話がしやすい職員が対応し、気持を受け止めるように努めている。プライベートエリアは、心にも身体にもあることを、子どもたちに伝えている。思春期の子どもに対しての対応には難しさがあり、今後の課題と捉えている。

(7) 自己領域の確保

① A30 でき得る限り他児との共有の物をなくし、個人所有とるようにしている。	a	A30
<input type="checkbox"/> 子どもが小さい頃から、自他の境界線がわかるような支援方法を心がけている。	○	
<input type="checkbox"/> 身につけるもの、日常的に使用するもの、日用品などは、個人所有としている。	○	
<input type="checkbox"/> 個人の所有物が保管できるよう個々にロッカー、タンス等を整備している。	○	
<input type="checkbox"/> 紛失防止のためにも、個々の子どもたちに片付け方を教えている。	○	
<input type="checkbox"/> 個人所有の物は、でき得る限り子どもの好みを尊重している。	○	
<input type="checkbox"/> まだ字が読めない子どもに対しては、イラストマークを使用するなどして、所有物がわかる工夫をしている。記名やマークは、でき得る限り子どもからの許可を得、子どもが恥ずかしがらなくても済むような場所に留める。	○	

【コメント】

子どもたちの居室は個室なので、大事なものは自分の部屋に置いている。居室は、子どもが施錠することもできる。子どもたち一人ひとりが自分のおもちゃ（ミニカーやフィギアや人形など）や自転車、食器、ハンドタオルを所有し、リビングの椅子も個別に用意している。おやつは大皿では出さず、個別に分け、残した分はキッチンで取り置き、個別に保管している。幼い子どもたちの持ち物には、名前やマークを記入しているが、成長に合わせて、目立たないところに書いたり、ローマ字で書いたりして工夫している。

② A31 成長の記録（アルバム等）が整理され、成長の過程を振り返ることができるようにしている。	a	A31
<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりに成長の記録（アルバム等）が用意され、空白が生じないように写真等の記録の収集、整理に努めている。	○	
<input type="checkbox"/> 成長の過程を必要に応じて職員と一緒に振り返ることができ、子どもの生い立ちの整理につながっている。	○	
<input type="checkbox"/> 可能な子どもとは共に、成長の記録（アルバム等）を整理している。	○	
<input type="checkbox"/> アルバム等は年齢や状況に応じて個人が保管し、子どもがいつでも見ることができる。	○	
<input type="checkbox"/> 子どもが施設を退所する時に、成長記録（アルバム等）が手渡されている。	○	

【コメント】

子どもたち一人ひとりのアルバムは、措置開始時にもってきた写真をはじめ、幼稚園や学校の行事での写真、外での活動やスポーツクラブでの写真などを、職員が整理して貼り、コメントを添えて作成している。たくさん写真があるので、職員は時間をかけてまとめている。アルバムは、年齢や状況に応じて、子どもたちの居室や事務室に置き、子どもたちが見たいときには、いつでも見られるようにしている。保護者との写真がどうして少ないのか、アルバムを見ながら、話をしたりして、生い立ちの整理につなげている。

(8) 行動上の問題及び問題状況への対応

①	A32 子どもの暴力・不適応行動などの行動上の問題に対して、適切に対応している。	b	A32
	<input type="checkbox"/> 施設が、行動上の問題があった子どもにとっての癒しの場になるよう配慮している。また、周囲の子どもの安全を図る配慮がなされている。		
	<input type="checkbox"/> 施設の日々の生活が持続的に安定したものとなっていることは、子どもの行動上の問題の軽減に寄与している。また子どもの行動上の問題が起きた時も、その都度、問題の影響を施設全体で立て直そうと努力している。		
	<input type="checkbox"/> 不適切な行動を問題とし、人格を否定しないことに配慮をしている。職員の研修等を行い、行動上の問題に対して適切な援助技術を習得できるようにしている。暴力を受けた職員へ無力感等への配慮も行っている。		
	<input type="checkbox"/> くり返し児童相談所、専門医療機関、警察等と協議を重ね、事態改善の方策を見つけ出そうと努力している。	○	

【コメント】

いさかい、盗み、たたく、かむ、物にあたる、自傷など、行動上に問題のある子どもについては、職員会議やケース会議などで全職員が課題を共有し、児童相談所とも連携をとって対応している。居室は個室だが、集団での生活でもあるので、本人への支援と同時に、周囲の子どもたちの安全をはかる配慮も行っている。毎日1回は、どの子どもとも、職員が一对一で向かい合って過ごせる時間を作っている。子どもがクールダウンするのを見計らって、個別時間を使って、話を聞くようにもしている。怒りのコントロールや話し合いの援助技術を、すべての職員が習得・活用できるようになることを課題としている。

②	A33 施設内の子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないよう施設全体で取り組んでいる。	a	A33
	<input type="checkbox"/> 人権に対する子どもの意識を育むよう支援をしている。日頃から他人に対する配慮の気持ちや接し方を職員が模範となって示し、子どもへ説明をしている。	○	
	<input type="checkbox"/> 問題の発生予防のために、施設内の構造、職員の配置や勤務形態のあり方についても点検を行っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 生活グループの構成には、子ども同士の関係性、年齢、障害などへの配慮の必要性等に配慮している。	○	
	<input type="checkbox"/> 課題を持った子ども、入所間もない子どもの場合は特別な配慮が必要となることから、児童相談所と連携して個別援助を行っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 大人(職員)相互の信頼関係が保たれ、子どもがそれを感じ取れるようになっている。子ども間での暴力やいじめが発覚した場合には、施設長が中心になり、全職員が一丸となって適切な対応ができるような体制になっている。	○	

【コメント】

各ホーム、子ども6名に対し固定の職員を3名配置している。各ホームの子どもの年齢は様々であるため、全員一緒の話はむずかしい場合があるので、1日1回は一人ひとりと向き合う時間を作り、個別の援助ができるよう努めている。そのため、フリーで動く職員やアルバイト職員を配置している。また、全体会議やケース会議、調整会議で、各ホームの情報を全体で共有している。職員同士が信頼し合い、チームワークを大切にして動く様子を、子どもたちに示すようにしている。ホームには、特別支援学級に通っている子どもや、知的な部分で問題がある子どもが生活しているが、いじめなどは見られない。

③	A34 虐待を受けた子ども等、保護者等からの強引な引取りの可能性がある場合、子どもの安全が確保されるよう努めている。	b	A34
	<input type="checkbox"/> 強引な引取りのための対応について職員に周知徹底している。		
	<input type="checkbox"/> 引取りの可否等について、児童相談所との連絡を適宜行い、判断が不統一にならないようにしている。	○	
	<input type="checkbox"/> 緊急時には協力を依頼できるよう、警察との連携を図っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 強引な引取りが考えられる場合、他の子どもへの安全についても配慮がされている。		

【コメント】

開所して7年の間に、強引な引き取りが考えられるケースがなかったため、対応についての手順は周知徹底できていない部分がある。児童相談所や警察、学校とは、常日頃から連携を図っている。ホームの正面玄関は1か所で、ガラス張りの職員室の前を通過して、各ホームに向かうことになるので、人の出入りは把握できている。保護者の所に外泊した際には、外泊中の状況を報告してもらい、ホームに戻った子どもの心身の様子や変化を観察している。

①	A35 心理的ケアが必要な子どもに対して心理的な支援を行っている。	a	A35
	<input type="checkbox"/> 心理的な支援を必要とする子どもについては、自立支援計画に基づき心理支援プログラムが策定されている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 施設における職員間の連携が強化されるなど、心理的支援が施設全体の中で有効に組み込まれている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 心理的なケアが必要な子どもへの対応に関する職員研修やスーパービジョンが行われている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて心理の専門家から直接的支援を受ける体制が整っている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 心理的支援を行うことができる有資格者を配置し、心理療法室を設置している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 児童相談所と連携し、対象となる子どもの保護者等へ定期的な助言・援助を行っている。	<input type="radio"/>	

【コメント】

心理職員から、定期的に心理セラピーを受けている子どもがいる。そのための部屋を用意している。また、児童相談所の心理ケースワーカーの所に出向き、職員と一緒に面談を受けることもある。心理的ケアについては、対応する職員がひとりで抱え込まないように、職員間の連携を図りながら取り組んでいる。

(10) 学習・進学支援、進路支援等

①	A36 学習環境の整備を行い、学力等に応じた学習支援を行っている。	b	A36
	<input type="checkbox"/> 静かに落ち着いて勉強できるように個別スペースや学習室を用意するなど、学習のための環境づくりの配慮をし、学習習慣が身につくよう援助している。		
	<input type="checkbox"/> 学校教師と十分な連携をとり、常に子ども個々の学力を把握し、学力に応じた個別的な学習支援を行っている。一人ひとりの必要に応じて、学習ボランティアや家庭教師、地域の学習塾等を活用する機会を提供している。		
	<input type="checkbox"/> 学力が低い子どもについては、基礎学力の回復に努める支援をしている。		
	<input type="checkbox"/> 忘れ物や宿題の未提出について把握し、子どもに応じた支援をしている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 障害を持つ子どものために、通級による指導や特別支援学級、特別支援学校等への通学を支援している。	<input type="radio"/>	

【コメント】

特別支援学級の子どもの多く、学習が苦手な子どもが多い。学校の宿題も、リビングで15分ほど取り組む程度で終わってしまう子どももいる。子どもたちに学習習慣をつけたいと職員は考えているが、方法や体制作りは検討中である。夏休みなどの長期休みには学習ボランティアに来てもらい、必要な子どもにマンツーマンで学習を見てもらっている。また、中学生が落ち着いて勉強できる環境作りも課題と考えている。現在、幼児が4人、小学生が18人、中学生が6人、高校生が1人いる。高校進学の準備をしている中学生が5人いて、4人が特別支援学級のため、面接の練習を繰り返し行っている。子どもたちが自分のことを見つめるよい機会となっている。

②	A37 「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。	b	A37
	<input type="checkbox"/> 早い時期から進路について自己決定ができるよう進路選択に必要な資料を収集し、子どもに判断材料を提供し、子どもと十分に話し合っている。		
	<input type="checkbox"/> 進路選択に当たって、親、学校、児童相談所の意見を十分聞き、自立支援計画に載せ、各機関と連携し支援をしている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 奨学金など進路決定のための経済的な援助の仕組みについての情報等も提供している。		
	<input type="checkbox"/> 進路決定後のフォローアップや失敗した場合に対応する体制ができており、対応している。		
	<input type="checkbox"/> 中卒児・高校中退児に対して、就労させながら施設入所を継続することで十分な社会経験を積めるよう支援している。		
	<input type="checkbox"/> 高校卒業後も進学を希望する子どものために、資金面、生活面、精神的面など、進学の実現に向けて努力をしている。		

【コメント】

開所して7年で、現在高校1年生が1人いる。中学3年生の5人は特別支援学級の子どもで、進学・進路のプログラムを用意している。普通クラスの子ども1人は、部活を引退し、進学の準備をしているが、準備が遅れてしまったため、今後は子どもの進路のためのノウハウを蓄積し、早くから取り組む必要があると捉えている。中卒や高校中退、あるいは専門学校進学、大学進学への支援はまだ経験がなく、今後の課題である。児童養護施設の子どもたちの支援活動をしているNPO「ブリッジフォースマイル」と連携し、情報交換や交流を行うことを考えている。一人暮らしの体験は、施設の部屋を使って行なえるよう、環境を整えている。

③	A38 職場実習や職場体験、アルバイト等の機会を通して、社会経験の拡大に取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、社会の仕組みやルールなど、自分の行為に対する責任について話あっている。	○
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、金銭管理や生活スキル、メンタル面の支援など、子どもの自立支援に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 実習先や体験先の開拓を積極的に行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 職場実習の効果を高めるため、協力事業主等と連携している。	○
	<input type="checkbox"/> アルバイトや、各種の資格取得を積極的に奨励している。	○

A38

【コメント】

アルバイトの体験も貴重と捉えているが、学校では特別支援学級の子どもはアルバイトが認められていない現実があり、就職実習やクラブ活動を優先している。アルバイトが可能な子どもも、自分からすすんで行ったわけではなかったため、結局、長くは続けられなかった。子どもたちの年齢から、アルバイトではなく、外で「一人1習い事」をすすめており、スポーツクラブやピアノ、ガールスカウト、ボーイスカウトの活動を行っている。

(11) 施設と家族との信頼関係づくり

①	A39 施設は家族との信頼関係づくりに取り組み、家族からの相談に応じる体制を確立している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設の相談窓口および支援方針について家族に説明し、家族と施設、児童相談所が子どもの成長をともに考えることを伝え、家族と信頼関係を構築できるよう図っている。	○
	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員の役割を明確にし、施設全体で家族関係調整、相談に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅などを取り入れ子どもと家族の継続的な関係づくりに積極的に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 外出、一時帰宅後の子どもの様子を注意深く観察し、不適切なかかわりの発見に努め、さらに保護者等による「不当に妨げる行為」に対して適切な対応を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもに関係する学校、地域、施設等の行事予定や情報を家族に随時知らせ、必要に応じて保護者等にも行事への参加や協力を得ている。	○

A39

【コメント】

保護者との関係が難しいケースでは、保護者との連絡が途切れてしまわないように児童相談所に入ってもらい、関係づくりを継続している。授業参観や学校行事の参加も親からの急なキャンセルがあると、子どもが不安定になることもある。定期的な交流ができるように、施設全体で家族との関係調整、相談に取り組んでいる。面会、外出、一時帰宅を取り入れ、子どもが一時帰宅した時は、どのように過したか親に報告してもらっている。退所、卒園後も連絡相談できる体制をとっているが、自分から連絡してくる子どもは少ない現実がある。

(12) 親子関係の再構築支援

①	A40 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員を中心に、ケースの見立て、現実的な取組を可能とする改善ポイントの絞り込みを行うなど、再構築のための支援方針が明確にされ施設全体で共有されている。	○
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅、あるいは家庭訪問、施設における親子生活訓練室の活用や家族療法事業の実施などを通して、家族との関係の継続、修復、養育力の向上などに取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 児童相談所等の関係機関と密接に協議し連携を図って家族支援の取組を行っている。	○

A40

【コメント】

開所して7年間で親子の再統合ができたのは3ケースであった。施設に親子訓練室があり、母親がやってきて、子どもと過ごすことができるようにしている。職員は、子どもとの日常生活の場面や個別の時間に、思いや本心の聞き手になったり、また、面談の時間を設けて、聴き取りも行っている。子どもから自分の生き立ちを教えてほしいと言ってくる時もある。

(13) スーパービジョン体制

①	<p>A41 スーパービジョンの体制を確立し、職員の専門性や施設の組織力の向上に取り組んでいる。</p> <p><input type="checkbox"/>スーパーバイザーを配置し、いつでも相談できる体制を確立している。</p> <p><input type="checkbox"/>職員に対するスーパービジョンを定例的に行い、職員がひとりで問題を抱え込まないように、スーパーバイザーなどを通じて、組織としての働きかけをしている。</p> <p><input type="checkbox"/>スーパーバイザー以外にも職員相互が評価し、助言し合うことを通じて、職員一人ひとりが支援技術を向上させ、施設全体の支援の質を向上させるような取組をしている。</p> <p><input type="checkbox"/>スーパーバイザーは、職員からの信頼が得られるよう、研修に参加するなど質の向上に努めている。</p> <p><input type="checkbox"/>国が定める基幹的職員を設置している。</p>	b
---	---	---

A41

【コメント】

職員会議や全体会議、ケース会議、調整会議を定期的に行い、職員が問題を一人で抱え込むことのないよう、留意している。職員のそれぞれの思いや、職員間の意見の相違があっても、情報を共有したり、意見を述べられる環境を作っていくことで、職員間のチームワークを深めるようにしている。児童養護施設間での研修や事例研究には、できるだけ参加するようにしている。外部からのスーパーバイザーの配置はないが、ホームのリーダーや、主任、施設長がその任を担っている。